

令和3年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月22日実施)	総合評価 (3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<p>①専門性を追究した教育活動を充実させる。</p> <p>②商業と工業の連携による特色ある教育活動を実践する。</p> <p>③学力及び技術技能の基礎力を確実に定着させる。</p> <p>④学習指導方法の改善を推進する。</p>	<p>①③基礎学力の定着をはかるとともに、共通教科および専門教科の発展的学習を充実させ、上級の資格取得を推奨。</p> <p>④「主体的・対話的で深い学び」の実践。</p>	<p>①難易度の高い資格・検定の取得に向けた補習等を行う。</p> <p>③基礎的な検定・資格を取得させ、より上位級への挑戦を促す。</p>	<p>①技能検定3級・第二種電気工事士・危険物取扱乙種の合格者は前年度より増えたか。</p> <p>①日商簿記3級の合格率は前年度より上昇したか。</p> <p>③各科目で最初に受験する検定の合格率は80%を超えたか。</p>	<p>① 危険物取扱者乙1類1名、3類1名、4類10名、5類2名6類2名、丙種9名 合計25名合格 有機溶剤作業主任者 14名合格 特定化学物質作業主任者12名合格 酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者6名合格</p> <p>① 第二種電気工事士 上期：20名受験10名合格 下期：10名受験5名合格 工事担任者第二級デジタル通信7名受験2名合格4科目合格</p> <p>③漢字検定では、2学期はコロナの影響で補習が行えず、合格者の割合が例年に比べ減少した。</p> <p>①③可能な限り教育活動は実践している。が、コロナによる短縮授業、学校休業などにより授業時間が減っていることが、生徒の資格、検定挑戦に少なからず影響を与えている。よって、前年等との比較は難しい。</p>	<p>①長期間継続的に行う講習が苦手な生徒が多い。動画配信など主体的な学びができるように工夫したが、なかなか合格率が上がらず、合格者数はほぼ横ばいである。補習に加え自宅等での自主的な学習に取り組める生徒の合格率があがるので、さらに教材の工夫や意識改革を促す必要があると考える。</p> <p>③漢字検定は、受験希望者が年々減少しているため、さらなる意識付けが必要である。</p> <p>①日商簿記検定の合格発表が3月18日であるが、好結果は期待できない。左記理由もあるが、定員割れからくる学力低下も教員はかなり実感している。</p>	<p>① 課題を明確にし取り組んでいることから、評価することができる。</p> <p>② 漢字検定受験希望低下は定員割れからくる学力低下の実態と分析しているが、基本は国語力習得が大前提。国語力の向上への取組に期待する。</p> <p>③ 各種検定合格者輩出は商工の特色である。今後も引き続き成果を出して欲しい。</p>	<p>① 新型コロナウイルス感染拡大による制約が引き続き中、オンライン授業やオンライン式典等ICTを用いた工夫により、新たな形態での活動が実現できた。</p> <p>④ 授業力向上の校内研修を実施し、年齢を問わず学び続ける姿勢や指導する方策技術の研究が職場全体として進んだ。</p>	<p>①③④令和4年度入学生より、1人1台端末を保護者負担で準備する。そこで端末を積極的に活用できる環境を整備していく。</p> <p>また、令和4年度入学生より、スタディサプリを導入する。学び直しや課題提出等で、こちらにも有効に活用する手段を構築していく。</p>
2	生徒指導 ・支援	<p>①基本的生活習慣の確立を図る。</p> <p>②社会人基礎力と豊かな間性を育む。</p> <p>③主体性を育み自立した人間の育成を図る。</p> <p>④教育相談体制の充実を図る。</p> <p>⑤学校行事や特別活動及び部活動の活性化を図る。</p>	<p>①②基本的生活習慣を確立するとともに、自己肯定感を育む。</p> <p>④多様な生徒に対応するため、SC及びSSWを活用し外部機関との連携を図るとともに、校内組織の充実。</p> <p>⑤部活動加入率の向上。</p>	<p>①②継続的な身だしなみ指導、遅刻指導を実施し、社会人としての基礎的資質を身に付けさせる。</p> <p>④生徒や保護者に対しSC・SSWの存在を周知徹底し、積極的な活用を図る。</p> <p>⑤感染症対策を講じながら、部活動紹介などの内容を充実させ、部活動加入率の回復を目指す。</p>	<p>①②身だしなみ指導および遅刻指導の件数が減少したか。</p> <p>④カウンセリングによる問題解決件数が増加したか。</p> <p>⑤部活動加入率が、前年度を上回ったか。</p>	<p>①②身だしなみ指導件数は136件(1年57件・2年49件・3年30件)であった。昨年度と登校日数が違うため単純比較はできないが、年次が上がるにつれ指導件数も減少していることから一定の指導効果はあったと思われる。</p> <p>④今年度のカウンセリング64回(生徒57回・保護者7回)ケース会議6回であった。SCの丁寧な対応により、継続的にカウンセリングを活用する生徒も多く見られた。また情報共有の体制も円滑に機能していた。</p> <p>⑤感染症予防のため、各部が作成した部活動紹介動画を各クラスで生徒会役員の進行の下で流すという、新たな形での部活動紹介を実施した。その後に行った部活動体験には、積極的に新入生が参加する姿がみられたが、それが直接部活動加入率の向上にはつながらなかった。2020年度はのべ279名のところ、2021年度はのべ236名の加入にとどまった。</p>	<p>①②身だしなみ指導や遅刻指導に関して、多くの生徒に対しては効果があり以前と比べて改善がみられるが、一部違反や遅刻を繰り返す生徒に対しての効果的な指導を確立していく必要がある。</p> <p>④昨年度同様、生徒へ向けての情報発信をさらに進めていき、「些細なことでも相談できるようなカウンセリング」という位置づけをさらに進めていく。また、職員間で情報の共有を徹底し、チームとして問題解決にあたる体制作りも引き続き行っていく。</p> <p>⑤男子の運動部員は若干増えたが、それ以外は部員数が減った。特に文化部は3年生の部員数が多い傾向がみられるため、今後も部活動加入率の減少が懸念される。今年度もかなりの時期、学校生活全体がコロナ禍によって制約される中で、部活動は殊更にその影響を受けている。部活動紹介などを充実させるだけでなく、各顧問などが部活動を指導できる体制づくりが急務である。</p>	<p>① 身だしなみ指導の効果が着実に実を結んでいることが伺える。</p> <p>④ カウンセリング活動の向上は評価できる。カウンセリングの重要性が増しているため、今後も対応をお願いしたい。</p> <p>⑤ 新型コロナウイルス感染症対応という従来とは異なる状況下での取組の苦労が伺える。部活動加入率の低下はやむを得ないと思われる。</p>	<p>① 身だしなみ、基本的生活習慣に力点を置いた指導は専門高校にとって必須である。引き続き、指導を継続していく。</p> <p>④ カウンセラーやソーシャルワーカーを活用し、支援が必要な生徒に支援を施していく。</p> <p>⑤新型コロナウイルスとの共存も視野に、部活動の加入率を向上させる施策を考案し、実施していく。</p>	<p>① 個別指導ではなく、全体で同じ指導が必要である。指導の統一性を図るため、共通認識を持つことが大切であり、確認の場を設ける。</p> <p>④カウンセラーとの情報共有を密にするとともに、ケース会議を有効に開催する。</p> <p>⑤ 部活動の加入率を向上させるために、その紹介に工夫を加え、有用性やメリットを伝える案を考え実践する。</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月22日実施)	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①実際の・体験的学習の機会拡大と充実を図る。 ②勤労観や公共心、社会奉仕の精神を涵養する。 ③進路相談体制の充実を図る。	①学年段階におけるキャリア教育の充実を図る。 ②進路未決定者ゼロ。 ③進学・就職にかかる事故防止の徹底。	①各学年での進路ガイダンスを各学年の状況に応じた適切な内容を工夫しながら実践する。特に、2学年における「インターンシップ」及び「仕事のまなび場」、3学年の「課題研究」及び「ものづくり実践」等でキャリア教育の充実を図る。 ①インターンシップや体験的な活動を通して勤労観や公共心を養い、自分の進路を自分で描き実現しようとする力を育成する。 ②進路に関し、各クラスの進路担当者が、親身になって生徒に接しながら、生徒自身の進路を適切に判断する。 ③すべての点検・作業を必ず複数で行い、生徒の不利益とならないように心がける。	①各種進路ガイダンスをとおり、自分の進路を真剣に考える態度が育成されたか。 ①「インターンシップ」及び「仕事のまなび場」への参加者数が、例年に比べ増えたか。 ②進路未決定者をゼロにすることができたか。 ③進路に関わる事故をゼロにすることができたか。	①③進路ガイダンスでは1・2年生には様々なアプローチで自分の進路を考えさせた。進路閲覧室の利用率も昨年より高まった。3年生については進路意識を高めた結果、進路未定者を無くすことができた。 ②「インターンシップ」や「仕事の学び場」への参加希望者は一昨年度(昨年度は中止)より多くなったが、緊急事態宣言の発令により半分近くの生徒が体験できなくなった。 ③進路に関わる事故を防ぐべく、健康診断に関わる部分は養護教諭をチェックするメンバーに加えるなど、複数によるチェック体制を徹底した。	①「インターンシップ」でビジネス系の希望する職種の受け入れ先が少なく、今後更に受け入れ先を開拓していく必要がある。 ③調査書等の発行点検等において、成績処理支援システムから出力された別個の資料の突合せだけでは、もとが同じデータを使用しているため、点検が不十分である。今後はシステムから出力された資料と学校要覧等に掲載されている教育課程表を突合する形でのチェックを実施していく。	① 緊急事態宣言下でのインターンシップ実施は厳しい状況だったと思う。中でもビジネス系の職種での受入先が少ないという実態は深刻。 ② 大学への進学率が増している中、モラトリウムでなく、各個人に合った指導をお願いしたい。 ③ 引き続き、事故防止には尽力して欲しい。具体的な事例をもとに、その後も同様のことが起こらないようなシステム作りが大切。	① 進路と学年が連携し、各学年でキャリア教育を推進することができた。今後時代の変化に対応できる内容を模索していく。 ② 新型コロナウイルス感染拡大に伴い進路状況にも変化が垣間見られる。生徒との相談体制を強化する必要がある。 ③ 証明書の作成時のチェック体制が機能しないことでミスが見つからなかった。今後は修正した体制が必要。	① 学年進行のキャリア教育を学校として系統立てたものにならなくてはならない。そのための整理が必要である。 ② 就職が多くなってきている傾向も見受けられる。進路相談を充実させて、生徒の進路実現を図る。 ③ 証明書の作成時、発行時には異なる根拠資料を突き合わせたかを確認するのかわかりやすくしてチェックを行う。
4	地域等との協働	①学校運営協議会制度を活用した、地域との協働を図る。 ②広報活動を充実させ情報の発信を推進する。	①地域やOB等の外部講師の活用。 ②コンソーシアムの活用。 ③中学生やその保護者に向けたPR活動の充実させ、入学志願者倍率1.1倍を目指す。	①②特に3学年での課題研究において地域やOB、連携企業と協働する。 ③特に近隣中学校教員へのPRを充実させる。	①②生徒の学びに地域やOBが関わり、成長を促すことができたか。 ③入学志願者倍率が上昇したか。	①②総合ビジネス科3年の授業において、OBの方が勤める企業と連携し、新たな取り組みに挑戦することが出来た。 ③中学校訪問はしたが、教員に対するPRに特化してはいなかった。	①②OBや企業の方々と関わるにより、生徒の成長につながった。 ③総合技術科1.05倍、総合ビジネス科0.9倍であり目標達成には至らなかった。来年度当初からのPRに力を入れたい(特に近隣中学校教員に対する本校理解を深めたい)	④ 入学志願者数の目標未達は課題。PR活動の活発な実施に期待。近隣の中学校には商工がどのように映っているのか実態を把握した上で戦略立案する必要がある。	① 学校運営協議会や同窓会など地域とのつながりを活用した活動ができた。 ③学校PRが入学の志望者数にはあまりつながらなかった。	① 地域との関係性を、学びにつなげる活動を引き続き推進する。 ③中学校へのPRを入学の志望者数につなげる分析と工夫を実現する。
5	学校管理 学校運営	①ミッションに沿った学校経営の推進を追究する。 ②安全心な学習環境を維持構築する。 ③教育公務員としての規範意識を醸成するとともに、風通しの良い職場環境を構築する。 ④働き方改革の視点に立ち長時間労働の解消に取り組む。	①避難訓練の充実及びDIG(災害図上訓練)の実施。 ②スチューデントファーストの視点に立った教育活動。 ③不祥事防止の徹底。 ④職場環境や業務内容を見直し、働き方改革に取り組む。	①②避難訓練やDIGの実施及びその内容の充実を図る。また、生徒の安心安全な学習環境の維持構築に努める。 ④グループ会議の形式を見直し、時間の削減および紙の使用の削減を目指し、業務の改善を目指す。	①②生徒の安心安全な学習環境の構築が実現できたか。 ④会議時間の前年度比3割減を実現できたか。	①②コロナ禍で実施できる形態での避難訓練を実施した。 ④グループ会議において、ペーパーレスを実現(前年比で8割削減)会議時間においても、1時間を超える会議は2回と回数及び時間の削減を実現した。	①②WEBを活用した訓練を実施したが、より生徒が主体的な活動となる訓練を実施したい。また、地域との協働での訓練についても次年度は実施していきたい。 ④会議自体のスリム化はすすめられたが、業務全体での均等化や改善について、次年度は取り組んでいきたい。	① 危機管理も多様性が増し、対応に苦労が多いと思う。 ④学校運営のスリム化は着実に進展しているようなので、今後も継続しての取組に期待。	① 新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い、各種訓練には制約も多いが、できる形で実施はしてきた。 ④働き方改革の目的を共有し、会議などでのスリム化を進めた。	① 新型コロナウイルス感染拡大の危険とともに、地震などが頻発しており、いつどんな災害が起きても対応できるように具体的な準備を進める。 ④仕事のスリム化につながるアイデアを出し合って検討を進める。